



新型コロナウイルス感染症の克服と With/Afterコロナを見据えた成長戦略

令和5年2月定例議会(2月22日~3月20日)では、一般会計2兆9,657億余円を含む総額4兆6,039億余円の令和5年度当初予算案はじめ、74議案が上程され、慎重な審議の結果、全ての議案を可決しました。

令和5年度予算は、15の柱で編成されています。具体的には、①新型コロナウイルス感染症の克服、②With/Afterコロナを見据えた成長戦略、③「リニア大交流圏」の形成、④産業首都あいち、⑤農林水産業の振興、⑥次代を創る教育・人づくり、⑦安心と支え合いの福祉・社会づくり、⑧安心できる医療体制の構築、⑨誰もが活躍できる社会づくり、⑩あいちのグローバル展開、⑪選ばれる魅力的な地域づくり、⑫安全・安心なあいち、⑬環境首都あいちの推進、⑭東三河の振興、⑮地方分権・行財政改革の推進、です。

令和5年度、ジブリパークでは、「もののけの里」と

「魔女の谷」の2エリアが開園します。これに続き、令和6年10月オープンを目指す「STATION Ai」を始め、令和7年度の愛知国際アリーナ、基幹的広域防災拠点のオープン、令和8年度のアジア競技大会・アジアパラ競技大会の開催、令和9年度のリニア中央新幹線開業、中部国際空港第二滑走路の供用開始など、日本の未来を形作るビッグプロジェクトを成功に導き、跳び上がる兔のように愛知を更に飛躍させていく。そうした思いを込めて、令和5年度当初予算は、『跳躍飛躍』予算として編成されました。

なお、閉会日には、松井圭介副知事の任期満了に伴い、後任に江口幸雄総務局長をあてる議案と、議員提案の政策条例である「あいち歯と口の健康づくり八〇二〇推進条例」の改正案が追加提出され、可決されました。

「あいち歯と口の健康づくり八〇二〇推進条例」 の一部を改正しました

【施行日】 2023年3月22日施行

【改正の背景・目的】

- ・本条例は、平成25年3月に議員提案の政策条例として制定され、歯科口腔保健の推進に十分な役割を果たしてきたが、制定後約10年が経過し、歯科口腔保健に関してオーラルフレイル対策など、新たな動きが生じている。
- ・このため、近年の歯科口腔保健を取り巻く状況、国の動き、本県の取組の現状を踏まえ、本条例を改正し、新たな概念などを盛り込み、歯科口腔保健のさらなる推進を図ることが目的。

【改正の主な概要】

- ・オーラルフレイル対策に関する記載を追加(前文)
- ・高齢期のオーラルフレイルの予防を図るための施策を追加(第8条)
- ・医療的ケア児に対する歯科医療提供体制の確保のための施策を追加(第8条)
- ・喫煙による歯と口の健康への悪影響を防止するための施策を追加(第8条)
- ・糖尿病等について、生活習慣病との因果関係がみられるという研究結果を反映して記載(第8条)

■オーラルフレイルとは

オーラルフレイルとは、適切な対応を怠ると心身の機能の低下をもたらすおそれがある口腔機能が虚弱であることをいう。オーラルフレイル対策は、全身の健康状態を改善するだけでなく、健康寿命の延伸にも大きく寄与することとなる。

新政あいち議員の一般質問ダイジェスト

教育問題について

外国人への日本語教育の推進を国や自治体の責務とする「日本語教育推進法」が成立し、多様な文化を尊重した活力のある共生社会の実現が法の目的とされている。愛知県内の外国人児童生徒で、日本語教育が必要とされているのは、1万人超と全国でも最も多く、夜間中学の設置など、対策が急務である。また、地域日本語教室への財政的な支援など、外国人児童生徒の日本語学習、進路相談、居場所づくりなどの整備が必要とされるため、県の姿勢を質した。



富田 昭雄 議員
(名古屋市名東区 5期)

スマートシティ事業の成果を横展開!!

令和4年度、スマートシティ事業を6市が取り組み、刈谷市では5Gを活用した救急医療分野で救命につながる技術との評価を得た。



永井 雅彦 議員
(刈谷市 3期)

そこで得られた成果を市町村へ波及すべく横展開を訴えた。沼澤政策企画局長は、地域特性や課題を抱える自治体にも活用できる可能性が高いため、積極的な横展開を促すと答え。市町村対象に得られた成果、実装に向けた今後の計画、類似事業へのアドバイスなどを発表する成果報告会を3月17日に開催すると公表した。

あいち県民の日(11/27)・あいちウィーク

塚本議員が昭和61年に、鈴木も平成22年に一般質問した県民の日のが、令和4年12月議会で、あいち県民の日条例として日の目を見た。今回の質問では、連合愛知などをお願いしたアンケートを紹介しながら、あいちウィーク(11/21~27)における休校等について取組状況を質した。教育長からは、県立学校では休業日を設ける方向で準備を進めているとの答弁があったが、稲沢市の小中学校は、24日を休校日とし23日の勤労感謝の日から4連休で既に準備している。



鈴木 純 議員
(稲沢市 4期)

大規模自然災害発生時の対応力強化へ

「大規模自然災害発生時の基幹的広域防災拠点の運営と情報の共有化」ははじめ2テーマについて質問を行い、その中でも、特に発災時の情報共有の重要性を訴えた。



樹神 義和 議員
(豊田市 3期)

大村知事からは、県と市町村等との情報共有については、災害拠点病院や通信事業者等を新たにネットワークに加えるなど、きめ細かく迅速な情報共有を可能とし、且つ、データの大容量化にも対応した新たな「高度情報通信ネットワーク」を整備するとの答弁を得るに至った。

ペット同行避難対策について

災害時における、避難所におけるペットの取扱いについて質問。

防災安全局長からは、愛知県地域防災計画において、ペットの飼育場所の確保に努めるものとしている。また、愛知県避難所運営マニュアルにおいては、アレルギーや感染症予防のため、あらかじめ避難者が生活する場所とは別の場所にペットの受入場所を確保する、屋根がない場合にはテントを設営して受け入れるなど、避難所における具体的な事項について示しているとの答弁。



久野 哲生 議員
(名古屋市南区 4期)

モノづくりを支える社会基盤整備について

モノづくり愛知を支える「名古屋三河道路の整備検討状況」「名古屋港の港湾整備及び脱炭素の取組」について質問。



嶋口 忠弘 議員
(安城市 2期)

質問に対し大村知事からは、あいちの価値を高めるとともに、日本の成長をリードしていくため、「産業首都あいち」の根幹となる社会基盤整備を着実に進め、日本一元気な愛知をつくっていく。質問の名古屋三河道路についても、早期実現に向けて、沿線市町や経済界などとも一丸となって全力で推進していくとの答弁を得た。

AIを活用した交通渋滞対策について

AIを活用した信号制御について、どのように取り組んでいくのか質した。令和3年度、県警察と企業が連携し、AIを活用した信号制御の実証実験を行った。具体的には、渋滞が課題となっている交差点でAIを活用した信号制御を実施したところ、右折待ちの長さが一定程度改善するなど、成果がみられた。この成果を、昨年ロサンゼルスで開催されたITS世界会議で論文発表を行った。今後も、AIを始めとした各種実証実験に積極的に取り組む考えを示した。



西久保ながし 議員
(岡崎市及び額田郡 3期)